

東大卒 広がる起業志向

東京大学の卒業生の進路選択が変わりつつある。多くの人材を輩出してきた官僚や弁護士などの専門職に対する志望に陰りがみえる一方、起業家として活躍するケースが目立つ。これまで起業は官僚や法曹に比べ、リスクが大きいと考えられてきた。東大卒の進路選択の変化は、国内の若者の仕事観が転換期にあることの象徴かもしれない。

官僚や弁護士志望に陰り



ヴォラーレの高橋社長は法学部からITの世界に飛び込んだ

キーワード検索でウェブサイトを上位に表示しやすくするコンサルティングを手がけるヴォラーレ(東京・豊島)の高橋飛翔社長(27)は法学部卒。2年生だった2007年に起業し、ビジネスの世界に飛び込んだ。

高橋社長がもともと興味を持っていた職業は政治家。だが、「日本の政治システムでは自分が力を持てるようになるまで時間がかかりすぎる」と考えた。そこで「起業に成功して莫大な資金を稼いで、政党をつくった方

力量発揮の場 自ら切り開く

が早い」というのが、起業した動機だった。順風満帆だったわけではなく、挫折も経験した。09年に部下に重要な決断をさせた結果、サービス品質の悪化を招いてしまい、多くの顧客の解約が発生。1年で半分以上の社員がやめた。「経営者自らが判断しないといけない局面では、他人に委ねるべきではなかった」と反省する。

それでも「常に新しいことに挑戦でき、手応えも大きい」と起業したことに悔いはない。これか

ら就職する若者には「どんな大企業も安泰とはいえない時代。会社に依存するのではなく、自分に経験やスキルを蓄積できる道を選ぶべきだ」とアドバイスする。

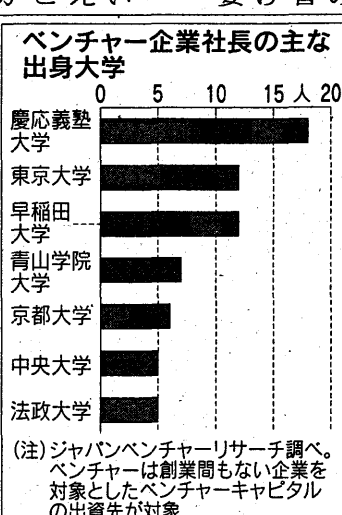
柴田社長は東大卒業後、外資系コンサルティング会社に入社。ハードな仕事の環境でもまれるうちに起業意欲が高まった。大学時代に国際的なビジネスコンテストを手がけるサークルの副代表を務めた経験もあり、起業に興味があった。「ベンチャーは何から何まで自分でやらないといけない面、より直接的に世の中から評価される点にやりがいがある」と語る。リクルートを経て、シ

資金にした。柴田社長は東大卒業後、外資系コンサルティング会社に入社。ハードな仕事の環境でもまれるうちに起業意欲が高まった。大学時代に国際的なビジネスコンテストを手がけるサークルの副代表を務めた経験もあり、起業に興味があった。「ベンチャーは何から何まで自分でやらないといけない面、より直接的に世の中から評価される点にやりがいがある」と語る。リクルートを経て、シ

就活の関連情報はこちらへ 大学面では就職活動中の大学生の疑問や不安にこたえる記事を掲載しています。関連情報を電子メール、daigaku@nikkei.co.jpへお寄せください。

資金にした。

柴田社長は東大卒業後、外資系コンサルティング会社に入社。ハードな仕事の環境でもまれるうちに起業意欲が高まった。大学時代に国際的なビジネスコンテストを手がけるサークルの副代表を務めた経験もあり、起業に興味があった。「ベンチャーは何から何まで自分でやらないといけない面、より直接的に世の中から評価される点にやりがいがある」と語る。リクルートを経て、シ



調査会社のジャパンベンチャーリサーチ(東京)

・渋谷）は昨年12月、創業間もない企業向けのベンチャーキャピタルが出資するベンチャーの社長の出身大学を調べた。その結果、東大は早稲田大学と並んで12人と、慶応義塾大学（18人）に次ぐ2位だった。ただ、東大の在学生（学部）は12年5月現在で約1万4000人と早大や慶大の半分以上。学生数当たりでは早大と慶大を大きく上回っているといえる。

公務員希望 14% ↓ 8%

東大生の進路志望で官僚や弁護士に陰りが出ている

ことは受験生の動向にも表れている。東大の中でも官僚や弁護士を多く輩出してきた法学部の志望者が進む文科1類の今年度入試の志願者は募集人員に対する倍率が規定の約3倍を下回った。この結果、センター試験の成績で門前払いする

東大アンケート調査 08年比、文理合計で

「第1段階選抜」が13年ぶりに行われなかった。

東大の佐藤慎一理事・副学長は「公務員は社会的な批判にさらされ、弁護士は就職難。法学部全体の人気陰り、東大にもそれが及んできたのではないか」と話す。

また、2010年に東大が学部生に実施した学生生

トップは企業の研究職

活実態調査（1455人回答）によると、文系と理系を合わせた就職希望先（複数回答）の1位は企業の研究職で18・2%。2位が大学などの教育・研究職で17・4%。3位は技術職と専門職（弁護士や医師など）とともに13・3%、キャリア官僚など公務員は6位で8・5%だった。専門職は前回調査の08年と比率はほぼ同じだが、公務員は14・2%から大きく低下した。